

平成29年白老町議会総務文教常任委員会協議会会議録

平成29年 7月 3日（月曜日）

開 会 午前10時00分

閉 会 午前10時13分

○会議に付した事件

1. 西いぶり広域連合ごみ焼却施設共同整備について
-

○出席議員（7名）

委員長	小 西 秀 延 君	副委員長	及 川 保 君
委 員	前 田 博 之 君	委 員	大 淵 紀 夫 君
委 員	吉 田 和 子 君	委 員	吉 谷 一 孝 君
委 員	西 田 祐 子 君		

○欠席議員（なし）

○説明のため出席した者の職氏名

副 町 長	古 俣 博 之 君
生活環境課主幹	後藤田 久 雄 君
生活環境課主任	合 田 静 恵 君

○職務のため出席した事務局職員

事 務 局 長	高 橋 裕 明 君
主 査	増 田 宏 仁 君

◎開会の宣告

○委員長（小西秀延君） ただいまより総務文教常任委員会協議会を開会いたします。
(午前10時00分)

○委員長（小西秀延君） 本日の協議事項は西いぶり広域連合ごみ焼却施設共同整備に係る検討結果についてであります。それでは担当課からの説明を求めます。

古俣副町長。

○副町長（古俣博之君） イランカラプテ。おはようございます。今ありましたように西いぶり広域連合から依頼がございましたごみ処理の共同整備の関係につきまして、これまで議会のほうにも経過と内容についてご説明を申し上げておりましたが、町としての方針が出されましたのでそれについてきょう議会のほうにもご説明申し上げたいと思いますので、よろしくお願ひします。

○委員長（小西秀延君） 後藤田生活環境課主幹。

○生活環境課主幹（後藤田久雄君） 西いぶり広域連合ごみ焼却施設の共同整備についてであります。ことしの2月13日に西いぶり広域連合から登別市と白老町について共同で処理をしないかという要請がありまして、それに基づいていろいろ検討した結果についてきょうここで報告いたしたいと思ひます。

まず1番目、方針についてであります。廃棄物処理施設に関する方向性については、1市1町によるクリンクルセンターでの共同処理を継続するということになりました。

2番目として方針を決定するにあたっての比較検討結果でございますが、将来に向けたごみ処理のあり方について、西いぶり広域連合3市4町の広域化による新規運営に参加する場合及び登別市との1市1町によるクリンクルセンターでの共同処理を続けた場合の双方について、住民生活への影響や財政負担など様々な観点から比較検討を進めてまいりました。広域化による新規運営に参加した場合の財政的負担を検証した結果としまして、平成51年までを比較検討した場合は、登別市との共同処理を継続した場合に比べ若干の負担が増加するものとなったと。広域化に新規運営への参加を検討するにあたって、町民の利便性については最大限確保するよう検討しましたが、ごみの焼却設備による分別の変更や、距離の延長に伴う利便性の低下、町内事業者への負担増など、影響を払拭することは困難であったということです。

そのあと、住民説明会についても、現在の共同処理の継続を希望するものや、広域に参加した場合の距離の延長化による負担増などの影響への不安が寄せられた。また、白老町環境審議会においても共同処理を継続することを妥当と答申をいただいております。以上の結果、西いぶり広域連合3市4町の広域化による新規運営か、1市1町によるクリンクルセンターの継続運営かの双方のさまざまな調査・分析等から比較検討した結果、現状どおりの登別市との1市1町による廃棄物の共同処理を継続することに決定いたしました。

2枚目に経緯ということで2月13日に西いぶり広域連合から共同整備による正式な参加要請がございまして、その後3月27日に総務文教常任委員会それと4月11日に経営調整会議、4月27日にまた再度総務文教常任委員会それと5月31日に議会の全員協議会のほうに方針案として提示してござ

います。

その間、登別市でも4月25日から27日に順に説明会、5月19日には市議会の生活福祉委員会に方針案を提示しております。それと5月22日から6月22日につきましてはパブリックコメントを登別市は実施しております。5月25日に市の環境審議会のほうに諮問してございます。それと6月の5日から7日、15日に登別市では住民説明会を再度行って99名の参加がございました。

白老町におきましても6月6日から8日、6月6日には萩野公民館で10名、6月7日竹浦コミセンで7名、6月8日白老コミセンで6名の参加がございました。主な意見等についてでございますが、平成41年度以降の処理についてはどうなのか、またごみ袋の値段が変更になるのか、これは特に竹浦コミセンであった意見なのですけれども虎杖浜、竹浦の住民については環境衛生センターよりもクリンクルセンターのほうが近いということもございまして、そちらのほうに直接ごみの搬入は可能かどうかというような意見もございました。あと西胆振ではなくて、苫小牧市との広域の処理の検討はされたのかというような意見もございました。

同じ6月6日に白老町の環境審議会のほうに諮問をいたしまして、6月26日に環境審議会のほうから一番最後に答申の写しをつけてございますが、廃棄物については登別市とクリンクルセンターで共同処理を継続することについて適当と判断するという答申書をいただいております。

そして登別市におきましても6月23日、市の環境審議会から答申を受け、6月26日に市議会の生活福祉委員会に方針決定の結果報告をしております。そして西いぶり広域連合のほうには決定通知を出してございます。白老町におきましては6月28日に課長会議で説明をしております、本日、総務文教常任委員会協議会で説明をさせていただいております。

以上で私のほうからの説明を終わります。

○委員長（小西秀延君） 担当課からの説明が終わりましたが、この件について質疑があります委員はどうぞ。

大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） この文章で見ますと、あと22年間くらいは登別市との共同処理を行うと、基本的には22年間はそのような方向で動くということでもいいですね、そこは。

○委員長（小西秀延君） 後藤田生活環境課主幹。

○生活環境課主幹（後藤田久雄君） 登別市のクリンクルセンターにつきましては延命化しております、平成41年までは現状のまま使用可能ということで、それまでの間については現状のままいきたいと思っています。ただ、登別市のクリンクルセンターについては、炉についてもとても良好な感じで運転されてございますので、もしかするともっとその時点で延命ができる可能性もないとは言えないと、今の状況だと可能性があるというようにも聞いてございますので、その時点でまた再度検討という形になるかと思えます。

○委員（大淵紀夫君） 大淵委員。

○委員（大淵紀夫君） ということは41年までは決定だけれども51年まで比べた場合は登別市との共同処理のほう若干あれなのだけれども、基本的には51年くらいまで延命をしながら共同処理をしていきたいと、41年までは間違いなく登別市との共同処理、あと12年間くらいだね。そのあとの10年についてはその時点で再度検討するというような理解でよろしゅうございますか。

○委員長（小西秀延君） 後藤田生活環境課主幹。

○生活環境課主幹（後藤田久雄君） 41年までは延命化ができますので、それまでは問題ないかと思えます。

○委員長（小西秀延君） ほかにいらっしゃいますか。

吉田委員。

○委員（吉田和子君） 吉田です。一つだけ確認をしておきたいと思えます。白老町の環境審議会に諮問して2週間程度で答申をいただいております。比較するのもおかしいのですが、登別市は1か月以上かけて諮問をして答申をもらっているわけですが、環境審議会というのは白老町の環境を中心になって守っていくという審議会だと思うのですが、審議会等の検討する時間とかそういったものは十分取れたというふうに判断していますか。

○委員長（小西秀延君） 後藤田生活環境課主幹。

○生活環境課主幹（後藤田久雄君） 環境審議会のほうにつきましては、その時点の方針で今までと変わらないということで、審議会委員の方全てがこのまま変わらないのであれば特に問題がないのではないかという意見がほとんどで、反対的な意見というのが一つもなかったのも、皆さん同じような意見でございましたので、特にそれによって審議時間が短いからどうだというのはございませんでした。

○委員長（小西秀延君） ほかにございますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○委員長（小西秀延君） 質疑なしと認めます。

◎閉会の宣告

○委員長（小西秀延君） これをもって総務文教常任委員会協議会を閉会いたします。

（午前10時13分）